

様式 1

研究報告書（平成 27 年度）

提出者 茶園敏美

提出年月日 2016年4月28日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 WWII 後占領期沖縄での米軍の性病対策

英文 Venereal Disease Control Conducted by the U.S. Military during the Post-War Occupation of the Ryukyus

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究は前年度に引き続き、第 2 次世界大戦後の占領地沖縄で米軍が実施した性病対策の考察をおこない、直接統治沖縄での実態を明らかにする。

これまで間接統治日本本土の性病対策を、①GHQ の政策②日本の法制度③新聞・雑誌④被害者たちの語りの 4 点から考察した結果、性病対策のための強制検診は、おんなたちへの性暴力であったことや、おんなたちの身体を管理する政策であったことを明らかにした。

本研究は、占領地沖縄の性病対策に関して①米軍および米国政府等関係機関の政策②沖縄のメディア③占領期沖縄のひとびとの体験の 3 つの観点から考察をおこなう。沖縄での性病対策を考察することで、沖縄と日本本土の性病対策を検討することができる。このときはじめて、分割統治された日本の性病対策の全体像を解明することができる。占領軍である米軍がおこなった性病対策の全体像を解明することは、性病の強制検診の被害者の尊厳回復に重要であり、米軍の占領政策解明の基盤となる研究である。

【研究業績】学会報告・論文など

(海外調査)

2015 年 11 月 25 日～同年 11 月 30 日 ハワイ大学占領期戦争花嫁資料調査

国内調査は多数のため省略。

(2014 年度に出版した拙著『パンパンとは誰なのか』書評会でのゲストスピーカー)

2015 年 7 月 2 日：立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催

2015 年 7 月 27 日：大阪大学大学院人間科学研究科コミュニケーション社会学牟田和恵大学院ゼミ主催
(メディア)

2015 年 4 月 3 日「占領期の性暴力問い直す 慰安所、パンパン…相次ぎ研究書『京都新聞』朝刊に掲載

2015 年 8 月 15 日放送 NHKBS 『戦後ゼロ年』資料協力者

2015 年 12 月 13NHKBS プレミアム『踏まれた草にも花が咲く』占領期京都の資料協力者
(社会・国民への発信)

2015 年 9 月 27 日「米軍占領下の女性への性暴力」報告者 アムネスティ・インタナショナル日本北摂グループ／「慰安婦」問題の解決を求める北摂ネットワーク・豊中主催

2015年10月4日京都大学アカデミックデイ 2015「占領期二都物語☆京都・神戸の平和と人権」パネル出展 京都大学主催

2015年11月14日 「米軍占領下の女性への性暴力」報告者 性暴力を許さない女の会 11月公開講座 性暴力を許さない女の会主催

(シンポジウム報告)

2016年3月12日「占領地におけるパンパの作られかた・語られかたと性暴力」シンポジウム「戦争と性暴力の比較史へ向けて」立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催

【成果の概要】(800字程度)

2015年度文部科学省科学研究費、基盤研究C(代表5年間)採択。

研究課題: 占領期分割統治沖縄と日本における米軍の性病対策—ジェンダーの視点から

2015年度文部科学省科学研究費、基盤研究B(研究分担者3年間)採択

研究課題: 婦人保護施設から見た戦後日本の女性の貧困——貧困概念の再定義に向けて



(写真左) マレーシアからの理系の研究者から質問を受けたことをはじめ、これまで出会わなかった理系の方々や、一般の方々と直接話げできたことは、アカデミックデイならではの大きなメリットだった。報告者自身、地に足の着いた研究を進めるうえで、とてもありがたいイベントだった。

(写真右) 2016年3月12日に立命館大学で開かれたシンポジウムが、2016年4月13日付朝日新聞東京版夕刊にとりあげられた。このシンポジウムは戦争と性暴力を「比較史」の観点から問い直すシンポジウムで、当日の参加者は165名。報告者は、登壇者の一人。

【通信欄】